

差別のない社会

銚田市立銚田北中学校 二年

岡部 未来

私が通院した日のことです。三歳くらいの女の子が、

車椅子に乗り、お父さんとお母さんと一緒にいました。

私は、その子に「かわいいね。」と声を掛けました。私が

その子の手を握りしめると、笑顔でぎゅっと握り返してく

れました。その様子を見ていたその子のご両親から声を掛

けられました。女の子はダウン症だということが分かりま

した。「偏見の目で見られたり、なかなか普通に接しても

らえないから、あなたのように自然に声を掛けてくれたこ

とがとっても嬉しいよ。」と話してくださいました。私に

とっては、何気ない行動でしたが、その女の子のご両親に

喜んでもらえて嬉しかったです。女の子のご両親は、これ

まで偏見の目で見られたりすることでたくさん、悲しい気

持ちになっていたんだと思うと、とても切ない気持ちにな

りました。

この体験から、「今、自分にできることはないだろうか。」

と考え、母に相談をして調べてみました。そして、「ヘア

ドネーション」をいう活動があることを知りました。「ヘ

アドネーション」とは、がんや白血病、先天性の無毛症、

不慮の事故などで髪の毛を失った子どもたちに髪の毛を寄

付することで、その髪の毛を使用したオーダーメイドの医

療用ウィッグを無償提供する取り組みだという事を知りま

した。これまで、私は生まれてからほぼ髪を切ったことが

なく、ずっと伸ばしており、腰位までの長さがありました。

私の髪の毛が、誰かの力になれることを知り嬉しくなり、

すぐに、母と一緒にヘアドネーションに協力してくれる美

容室を探し始めました。

しかし、なかなか引き受けてくれる美容室が見つかりません。それは、まだヘアドネーションをいう活動が社会に浸透していないことと、普通にカットすればいいだけでなく、いくつかに髪を束ねてバラバラにならないようにカットしていかなければならず、手間がかかることと、ヘアドネーションをいう存在は知っているもののやった事がないという理由から断られてしまいました。何件かたずねてようやく協力してくださる美容室を見つけました。ご協力くださった美容室も経験はありませんでしたが、以前からヘアドネーションに関心があったことと、私の思いが伝わり賛同して下さいました。

私は普段から内気な性格で話すことが得意ではありませんが、そんな私の思いが伝わりお応えくださった美容師さんには感謝の気持ちでいっぱいになりました。

髪の毛を送った後、ヘアドネーションの機関から美容室と私宛にきちんと髪の毛が届いたとのお便りをいただきました。髪がないことでつらい気持ちになったり、偏見の目で見られたりと、たくさん苦しい思いをしている人に、少しでも明るい気持ちになったり笑顔を届けることができたのなら、とてもうれしいです。

このような経験から、「今、私に何ができるのだろうか」

と考える気持ちを強く持つようになりました。ヘアドネーション活動も一人では出来ませんでした。ご協力してくださった美容師さんがいたからこそです。まず、無理かもと考える前に誰か同じ思いの方がいるかもしれない、協力していただける方がいるかもしれない、伝えてみようという気持ちを持ち、勇気をもって一歩踏み出してみるこの大切さを強く感じました。差別や偏見のないみんなが相手の気持ちに寄り添えるような社会づくりに、これからの社会を担う一員として貢献していきたいと思えます。

